

【週刊タバコの正体】

Vol.54 第1～第4話

2023年01月

和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 54

(No. 732) 第1話 タバコのない国

ーニュージーランドの一生タバコを吸えない法案を紹介...

令和5年(2023年)を迎えました。新年の始まりにあたり、気持ちも新たに3学期の学校生活に取り組んで下さい。そして3月には進級および卒業できるよう、しっかりとがんばって下さい。

さて、世界では持続可能な社会をめざして17の目標を掲げたSDGsが動き出していますが、その3番目の「すべての人に健康と福祉を」のなかに「たばこを規制する条約を守ろう」という項目がある事を知っていますか。

(No. 733) 第2話 全館禁煙

ー公共施設等の敷地内禁煙に続きホテルも全室全館禁煙へ...

下のグラフは、ある大手ホテル会社が調査した禁煙・喫煙に関するアンケート結果(回答者数:約1万4千人)を示しています。ホテルを選ぶ際“禁煙の部屋”を選ぶと答えた人が圧倒的多数でした。タバコを吸わない人が大多数の現代では当然の結果だと言えますが、なによりもタバコのニオイがしみついた部屋で一夜を過ごすなんて想像するだけで不愉快になりませんか。それに、もしかするとニオイに含まれるタバコ成分のせいで頭痛や吐き気を経験する人もいるかも知れません。

(No. 734) 第3話 子どもの受動喫煙

ー家族に喫煙者がいると同居家族の受動喫煙をゼロにするのはほぼ無理...

喫煙者がいる家庭では、タバコを吸わない家族が受動喫煙をしてしまう機会が多くなります。とりわけ乳幼児や子供がいる場合はその影響をうけやすくなります。

その影響度を調査した結果が左図のグラフです。タバコの煙に含まれるニコチンは体内で“コチニン”という物質に変化して尿中に排出されるので、尿中のコチニン濃度を調べると、受動喫煙の程度がわかるわけです。千葉市内で行われた調査では1500人の児童のうちコチニンの濃度が高かったのは65人で、そのほとんどが同居家族に喫煙者がいたという結果だったそうです。喫煙者がいる家庭の子供たちは、ほぼ確実に受動喫煙の影響を受けているのです。

(No. 735) 第4話 いずれは禁煙

ー喫煙者の多くは、できればをやめたい、やめた方がいいと考えている...

このグラフは厚生労働省が行っている「国民健康・栄養調査」の喫煙に関連する項目のデータを分析して「喫煙を止めたい」と思っている人の割合を示しています。

男女別・年齢別にまとめられていますが、平均すると「止めたい」と思っている人は30～40%、「本数を減らしたい」人は20～30%で、両方合わせると60%程度の喫煙者は「タバコを吸わないようにしたい」と考えている事がわかります。

男女とも50代を超えるとタバコを止めたいと考える人が増えていきますよね。この年齢になると喫煙による健康への影響が出始め、気になるようになるのではないかと思います。



Serial number 732

第1話

週刊 タバコの正体

令和5年(2023年)を迎えました。新年の始まりにあたり、気持ちも新たに3学期の学校生活に取り組んで下さい。そして3月には進級および卒業できるよう、しっかりとがんばって下さい。



3-a すべての国で、たばこを規制する条約で決められたことが実施されるよう、必要に応じて取り組みを進める。



さて、世界では持続可能な社会をめざして17の目標を掲げたSDGsが動き出していますが、その3番目の「すべての人に健康と福祉を」のなかに「たばこを規制する条約を守ろう」という項目がある事を知っていますか。

人々の健康を守るためにタバコを規制するのは重要とされているのですが、それを実践するよう出来事がありました。昨年、なんとニュージーランドで2009年以降に生まれた人への紙タバコの販売を恒久的に禁止する「一生タバコを吸えない法案」が可決しました。この法律が施行されれば、段階的に喫煙者がなくなり、将来ニュージーランドはタバコのない国になりそうです。「すべての人に健康を」を実現する効果的な対策だと思います。じつは、マレーシアでも2005年以降に生まれた人にタバコを販売する事を禁じる法案が検討されているそうです。

2023年はタバコのない国が誕生する新しい時代のスタートかも知れません。そして、それは持続可能な社会への新しい一歩かも知れません。

Zero Tobacco
In WAKO Since 2005

産業デザイン科 奥田恭久



Serial number 735

第4話

週刊 タバコの正体



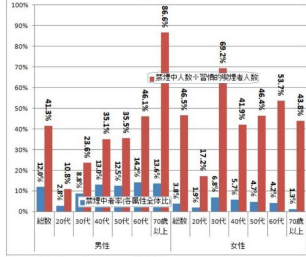
このグラフは厚生労働省が行っている「国民健康・栄養調査」の喫煙に関連する項目のデータを分析して「喫煙を止めたい」と思っている人の割合を示しています。

男女別・年齢別にまとめられていますが、平均すると「止めたい」と思っている人は30～40%、「本数を減らしたい」人は20～30%で、両方合わせると60%程度の喫煙者は「タバコを吸わないようにしたい」と考えている事がわかります。

男女とも50代を超えるとタバコを止めたいと考える人が増えていきますよね。この年齢になると喫煙による健康への影響が出始め、気になるようになるのではないかと思います。

そして、下のグラフには実際に禁煙中だとみられる人の割合が示されています。男性総数(左端のグラフ)を例にすると、調査に参加した喫煙・非喫煙をあわせた男性全員のうち「以前は喫煙していたが1か月以上吸っていない人」が12.0%で、現在喫煙者の41.3%に相当していると言えます。

平均すると喫煙者の40%以上が禁煙中だという結果をどう感じますか。



なんとなく「いずれ、タバコはやめる事になる」という時代になって来ているように感じませんか。興味本位で吸い始めてしまうと、いずれ禁煙するのに苦労する事になるのです。初めから吸い始める必要ありません。

産業デザイン科 奥田恭久

Zero Tobacco
In WAKO Since 2005

毎週火曜日発行

URL: https://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

